

島の普段着フィッシャーマン・パンツ ポータィアス・郷子 (タイ)

タイのサムイ島 (Koh Samui) は、年間を通して暑く、海に囲まれた立地と外国人観光客も多いせいか、ドレスコードといったものもなく、誰もが自由な服装です。水着や裸足のまま歩いている人、上半身裸で働く男性も日常の風景です。私のような外国人がファッションとしてタイの服を着ると、いかにも民族衣装を着ているか、何となくリゾートホテルなどで働く従業員の制服姿のように見えてしまいます。島のファッションを着こなすポイントは、まずは少々着崩すことです。例えば、Tシャツにサロン (バティック柄などの腰布) を腰に巻くだけのシンプルなスタイルで、天候を問わず、1日中、ビーチからレストランまでどこでも過ごせます。しかし、屋台やレストランで働く少々高齢の女性たちも、よくそのようなスタイルをしています。多少の着こなしの違いで、おしゃれなリゾート・ファッションにもなれば、地元のおばさん風にもなってしまうということです。

気になるウェアとして、フィッシャーマン・パンツ (fisherman's pants) というものがあります。広げるとウエストはパンツの裾幅と同じなので、見た目は四角いぶかぶかパンツです。ウエストの余分な布をお腹の辺りで合わせて紐で結んで、上から2つ折に垂らして、腰に少し下げた感じで着ます。初めは大判の袴か着物を着ているような感覚でしたが、着慣れるとこんなに楽なパンツはほかにはありません。その名の通り、地元の漁師たちが日常着として着ています。元々の由来ははっきりとしていませんが、何世紀にもわたって受け継がれてきたもののようです。

タイ北部チェンマイの農民の作業着のパンツも同じようなデザインですが、フィッシャーマン・パンツの方が素材も軽く、夏のウェアとして適しています。現在、フィッシャーマン・パンツは漁師のパンツにとどまらず、その用途は外国人の中でもいろいろ広まっています。ヨガや武道のウェアとして着ると、単に動きやすいだけでなく、スピリチュアルなイメージにもぴったり合っているようです。食べ過ぎても少し紐を緩めればいい点は、決してダイエットに向いているとは言えませんが、男女兼用で元々大判なので、妊婦服としても愛用されています。布地も綿、レーヨン、絹などで、それぞれに違った履き心地があります。色、柄、デザインも多様化し、子供用のサイズもあります。値段もそれほど高いものではないので、気軽にいろいろと試すことができますし、何よりタイ製品を地元で愛用していることで、愛国心の強いタイ人からは多少なり喜ばれていると思います。



写真1 夫婦兼用のフィッシャーマン・パンツ



写真2 カラフルなフィッシャーマン・パンツは娘たちのお気に入り



写真3 ロング・ボートと呼ばれる釣り船とフィッシャーマン・パンツ愛用の友人